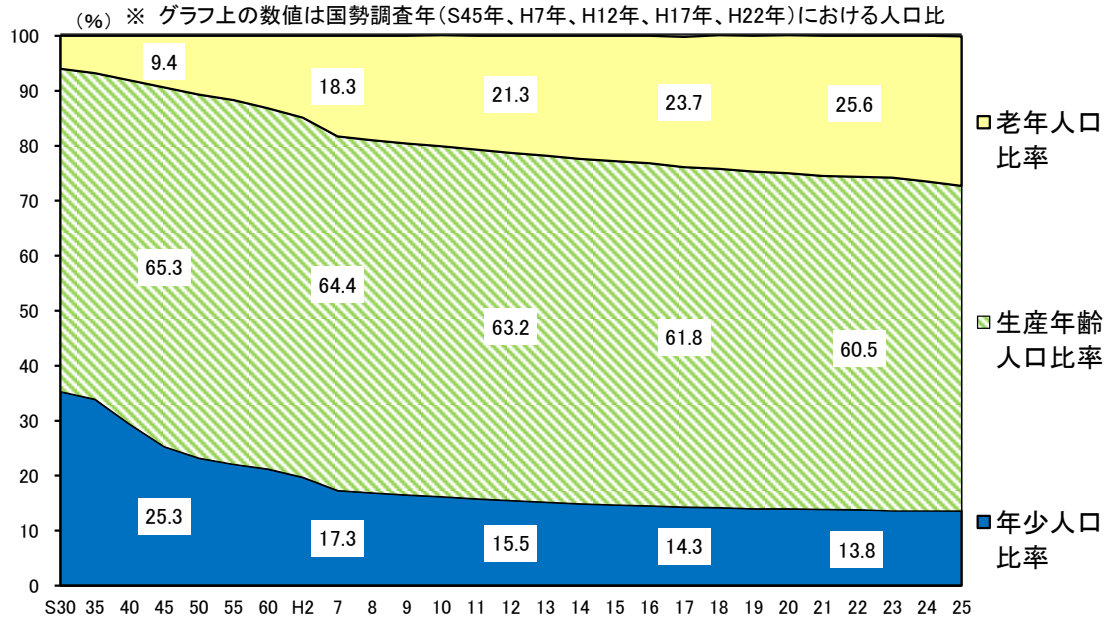


熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



解 説

【概要】

平成25年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口13.6%（前年13.7%）、生産年齢人口59.1%（前年59.8%）、老年人口27.2%（前年26.5%）となっており、生産年齢人口は、全体の約6割を占めている。

昭和30年以降の推移をみると、昭和50年代を境に生産年齢人口が減少し始め、また、年少人口は平成年代初期に2割を割り込んだ。

一方で、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和30年に6.0%だったものが、平成12年には21.3%と2割を突破し、平成25年には27.2%（全国25.1%）と高齢化の進行が続いている。

○老年人口
65歳以上の人口

○老年人口比率
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$

○年少人口
0歳から14歳までの人口

○年少人口比率
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$

○生産年齢人口
15歳から64歳までの人口

○生産年齢人口比率
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$

| 資料出所 | 調査期日 | 調査周期 |
|----------------|------------|------|
| 「人口推計年報」総務省統計局 | 平成25年10月1日 | 毎年 |